新聞に親しみ、自分の考えを伝え合う子どもを育てる学習活動の工夫

~ 「新聞に親しむ」「新聞を活用する」NIEの実践を通して ~ 延岡市立上南方小学校 教諭 髙橋 公一

1 はじめに

学習指導要領の改訂の経緯の中で、「知識基 盤社会」の時代となる21世紀においては、 確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和を 重視する「生きる力」を育むことがますます 重要になると述べられている。また、中教審 答申においても、基礎的・基本的な知識技能 の習得とともに思考力・判断力・表現力の育 成が学習指導要領改善の基本方針として示さ れている。さらに、これらを育む基盤となる 言語に関する能力を育成するために、発達の 段階に応じて記録、要約、説明、論述といっ た学習活動にも取り組む必要があると指摘し ている。これらを踏まえ、高学年の国語科に おける言語活動例の一つに編集の仕方や記事 の書き方に注意して新聞を読む言語活動が示 されている。新聞は、幅広い立場や年齢層の 人々に配布されるメディアとして編集され、 社会・経済・政治・産業など多岐にわたる内 容が取り上げられており、記録、要約、説明、 論述といった思考力・判断力・表現力を育む 基盤となる能力を育成するために活用するこ とが期待されている。

本校は、自然環境に恵まれた全校児童13 0名余りの小規模校である。今年でNIE実践校としては2年目を迎えたが、担当が替わるとともに昨年度に引き続き6年生児童を対象にした実践のため、昨年度の取組を参考にしながら、今年度の児童の実態に応じて実践をスタートした。本学級は、6年生(男子12名・女子14名)である。事前に実施した意識調査の結果(表1)から分かるように、新聞を読む習慣のある児童はいずにときどき読 むとしても、テレビ番組欄か天気予報を確認 する程度であった。

表1. 新聞を読む習慣について

新聞を読む頻度	割合
よく読む	0 % (0/26)
ときどき読む	1 5 % (4/26)
読まない	8 5 % (22/26)

この様な実態と、本校の教育活動の特性から、 まずは「新聞に親しむ」、次に実態に応じて「新聞を活用する」という2つの観点をもって本実 践を行うことにした。

2 実践の概要

- (1)新聞に親しむ活動
 - 新聞記事のさがし方 新聞を開いてみよう
 - 今日の一面から
 - 新聞クイズ
 - 意味調べ合戦

(2) 新聞を活用する活動

- 1枚の写真から
- 今週の一押しニュース
- 国語の学習との関連を図って
 - ・「ニュース番組を作ろう」
 - ・ポスターセッション
- 卒業新聞集の作成

3 具体的な取組

(1)新聞に親しむ活動

① 新聞記事のさがし方

日常生活の中で、ほとんど新聞に触れたことのない児童の実態から、まずは新聞を手に取らせることや、新聞の構成や記事のさがし方について学ばせることが必要であると考え、オリエンテーションも兼ねて次のようにポイントを絞った指導を行った。

ア 『分野別の紙面構成について』

新聞は、政治、経済、国際、スポーツなどというように記事が分野別に分かれている。曜日や新聞社によって異なるが、紙面の上に分野が示されていることを知らせ、知りたい情報を探したり、自分が興味をもった記事がどの分野に関する記事なのかを確かめたりすることができることなどについて、実際に新聞を開いて一緒にチェックしながら確かめさせた。

イ 『目次の役割を果たす一面について』 一面を見ると、その日の新聞にどんな 記事が載っているかが分かるようになっ ている。つまり、目次の役割を果たして いるのである。そこで、いきなり新聞を 広げ記事を読み進めていく方法もあるが、 一面を見て知りたい情報に関する記事や 興味をそそる記事が載っていないか調べ てみるのも効率的に記事を探す方法の一 つであることを知らせ確かめさせた。

ウ 『見出しとリードについて』

見出しは、記事の内容を短い言葉で端 的に表している。また、長い記事にはそ の内容をまとめたリードがついている。 つまり、見出しを見てリードを読めば記 事の大まかな内容が捉えられるのである。 記事の内容が一目で分かるようにまとめ てある見出しと、見出しの脇についてい るリードに注目すれば、記事の全てを読 み進めなくてもだいたいの内容が分かる ため、記事さがしに大変役立つことを知 らせ、同じように確かめさせた。

② 今日の一面から

新聞の一面が、その日の新聞の内容を知るために役立つことは理解できても、なかなか自分から新聞を手にとって読もうとする児童は現れなかった。NIE実践校ということで、複数の新聞が毎日届けられるのに、肝心の子どもたちがなかなか興味を示さないという状況が続いたのである。

そこで、朝の「先生の話」や朝学習の時間を利用して、その日に届いた新聞の一面を見せ、教師が記事の内容を簡単に紹介する場を設けた。子どもたちの興味をそそる大きな写真などの資料が含まれる記事を中心に、毎日ではないがしばらく取組を続けてみた。すると、一部ではあるが登校してから学級に届く新聞を進んで手に取り今日の一面をチェックしたり、興味を持った内容の記事があれば「先生、今日は○○のことが書かれていました。」と自ら報告してくれたりするようになった。

数社から新聞が届くため、一面の記事を 比べて見る児童も現れるなど、新聞に対す る関心が徐々に高まっていった。

③ 新聞クイズ

子どもたちが徐々に新聞に興味を示すようになり、教室に届く新聞を手に取る子どもも少しずつ増えていった。

そこで、さらに新聞に親しませようと新聞クイズを行った。天気予報やスポーツ欄を見れば誰でも答えられるような簡単な問題から始め、新聞広告やくらしの情報、地域や社会、国際面や政治など、徐々に関連する記事を探して答えを見つけなければ答えられないような問題にレベルアップしていった。ただし、個人差もあるので、あく

までも新聞に親しませる、新聞への興味を 高めるきっかけにすることをねらいとし、 子どもたちへの負担にはならないように配 慮した。

④ 意味調べ合戦

6年生の国語の単元「言葉の意味を追って」という学習に関連させて、意味調べ合戦を行った。この単元では、広辞苑を作った親子の生き方から辞典作りについて学んだり、身近な生活にかかわる言葉を集めて簡単な辞典を作ったりする学習を行う。

そこで、辞典の活用を図るために新聞を活用して次のような取組を行った。新聞から決まった数の言葉を選び、選んだ言葉を問題として出題し、協力してその意味を調べるという活動をグループ対抗で行った。できるだけ難しい熟語や意味の分からない言葉を出題しようと、政治や経済、国際面を開いて言葉を探すなど、子どもたちなりに新聞を活用して楽しむ姿が見られた。

(2) 新聞を活用する活動

① 1枚の写真から

新聞に親しむ様々な活動を通して、徐々に進んで新聞に触れる姿が見られるようになってきた。そこで次に、記録、要約、説明、論述といった思考力・判断力・表現力を育む基盤となる能力を育成するための新聞の活用方法を考えた。

本学級児童の実態から、まずは分野を問わず自分が興味を持った写真を選び関連する記事から感想をまとめる、という活動を行った。写真から記事を選ぶことにすれば、文章を読むことに抵抗がある児童でも比較的取り組みやすいのではないかと考えたからである。また、無理なく継続的に取り組ませたいというねらいから、毎週末の家庭学習を中心に取り組ませるようにした。

こちらのねらい通り何の抵抗もなく、ど の児童もすぐに取り組むようになったが、 スポーツや芸能、事件記事からの写真が中 心となり、中には関連記事も読まずに自分 の主観のみで感想をまとめてくるなど、や や個人差が目立つ取組になった。そこで、 本人と教師とのやりとりだけにせず、それ を元に全体の前でスピーチさせたり、隣同 士やグループ内で交換して読ませたりする など伝え合う場を設定してみた。すると、 スピーチを通して説明したり分かりやすく 伝えたりするために写真だけでなく関連記 事を読み込むようになったり、上手な友達 をまねてまとめ方を工夫したりするように なった。また、読み手や聞き手を意識して 記事を選ぶ児童が少しずつ増えていった。

② 今週の一押しニュース

2学期からは前述の取組をさらに進めて、 『今週の一押しニュース』という形で「記事の要約、感想のまとめ、記事を通して伝えたいこと」という欄を設けたワークシートを準備し取り組ませた。さらに多くの人を意識させるために、廊下や階段にある掲示板を利用して日常的に掲示した。



まとめ方については、要約は国語や社会の学習と関連させて箇条書きで 5W1H が分かるようにまとめること、感想はできるだけ詳しく書くこと、伝えたいことは伝聞

や呼びかけの形でまとめることという約束をして、要約や説明、論述する力を伸ばすことを意図した取組になるようにした。記事を通して伝えたいことという観点を加えたことにより、取り組みやすい記事から読み手を意識した記事へと記事の選び方にもよい変化が現れた。

③ 国語の学習との関連を図って 国語の学習と関連させて、新聞を活用し た次のような取組を行った。

ア 『ニュース番組を作ろう』

この単元では、ニュース番組の構成などを知り、実際にニュース番組を作り伝え合うことをねらいとしている。ここでは、グループごとに作るニュースの中に、新聞を利用したコーナーを必ず入れることにして取り組ませた。動物や自然、季節に関する話題から環境問題まで、グループごとに様々な記事を選びニュース番組のコーナーの一つとして発表した。

イ 『ポスターセッション』

表現力を伸ばすためには、様々な発表の仕方を経験させることも重要である。 そこで、参観日を利用し子どもたちが書きためてきた『今週の一押しニュース』 の中から自分が一番伝えたい記事を選び、ポスターセッション形式で発表する授業を行った。



参観日ということもあり、友達だけでなく保護者も意識して話し方を工夫したり、質問に備えて記事に関連したことを調べて来たりするなど、一人一人が自分なりに目的意識を持った積極的な学習が展開された。

④ 卒業新聞集の作成

本年度は、NIE 実践校ということであらゆる機会を捉えて新聞に親しませ、活用を図ってきた。子どもたちにとっても、新聞に触れる機会がこれまでになく増え、ずいぶん身近な存在となったようで(表2)、小学校卒業にあたって「思い出を新聞集にまとめよう」ということになった。

個人とグループの項に分け、必要に応じて家族や教師、他学年児童への取材を行い思い思いに小学校の思い出を新聞形式にまとめ卒業新聞集を完成させた。

表 2. 新聞を読む習慣について

新聞を読む頻度	割合
よく読む	6 2 % (16/26)
ときどき読む	3 8 % (10/26)
読まない	0 % (0/26)

4 おわりに

本年度、初めて NIE の取組に携わり、これまでに述べてきた様々な児童の変容を通して改めて教材として新聞を活用する効果を実感することができた。しかし、限られた教科の年間指導計画や学校の教育活動の中で、見通しを持って計画的に新聞を活用した学習や取組をリンクさせることの難しさも実感した。

多くの教師が NIE の取組を実践し、それぞれに試行錯誤を積み重ね、新聞教育の可能性を広げていくことが重要であると考える。